

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
福祉倫理学 Welfare Ethics		2年	前期	金曜・4限
単位数	授業の形態		授業の性格	
2単位	講義		選択	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
特になし				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
特になし				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス	
井上 美和	非常勤講師室	授業中に指示します	授業中に指示します	
授業の概要				
福祉現場は人と人が接する場であるために、倫理観をゆさぶられる場面に多々遭遇する。そこで職業としての倫理はもちろんのこと、個人の尊重、自由、人間としての平等、生存権等について、福祉の現場に即して考察する。またそれらをもとに福祉専門職のモラルコードを検討し、福祉サービスにおける利用者の権利を保護することの意義を理解する。				
授業の到達目標				
①職業としての倫理に加え、個人の尊重、自由、人間としての平等、生存権について考察することができるようにする。 ②福祉の現場における倫理について、各人が考察を深めることができるようにする。 ③福祉サービスにおける利用者の権利を保護する意義について理解することができるようにする。				
授業の方法				
福祉現場における倫理について、配布資料を用いて講義形式で学ぶ。また事例を多く取り上げ、自分自身の考えをまとめることにより、自己の価値観や倫理観を認識する。さらにディスカッション等で様々な考え方や価値観を学ぶ機会とする。				
学習の成果				
①個人の尊重、自由、人間としての平等、生存権について考察を深めることができる。 ②福祉の現場における倫理について、考察を深めることができる。 ③福祉サービスにおける利用者の権利を保護する意義について理解できる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業のねらいと進め方、成績評価について等の説明			
第2回目	倫理学とは 葛藤からの問いかけ			
第3回目	行為の自由と存在の自由 事例：あなたはお刺身を買ってきますか？			
第4回目	人間としての平等① 事例：エリオット先生の特別レッスン			
第5回目	人間としての平等			
第6回目	社会権としての生存権 事例：札幌姉妹孤立死			

第7回目	依存しない自立と共に生きる自立 事例：ある日、突然障害を負った青年と家族の苦悩		
第8回目	かかわりのなかの死と倫理① 事例：「死にたい」の背後にあるもの		
第9回目	かかわりのなかの死と倫理② 事例：人生の終焉の支援		
第10回目	かかわりのなかの死と倫理③		
第11回目	かかわりのなかの死と倫理④		
第12回目	福祉専門職としての倫理① 事例：妻の心が壊れていく		
第13回目	福祉専門職としての倫理② 事例：忙しさのなかで見失っていたもの		
第14回目	まとめ		
第15回目	まとめと定期試験		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	ディスカッションで積極的に発言しているか、集中してノートをとっているかを評価基準とする。
レポート		70%	授業内容をもとに深い考察がなされたか、当該科目の目標をどの程度達成できているかによって評価する。
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容（態度含む）			
その他			
教科書と参考図書			
<参考図書> 藤谷秀、横山貴美子 『介護福祉のための倫理学』 弘文堂 2007年			
履修上の心得・ルール			
ディスカッションでは、積極的に自分の意見を伝えること、人の意見に耳を傾け尊重することが基本です。積極的な態度で授業に臨んで下さい。			